

天井面用透水量試験器は含浸材の施工前と施工後、各3カ所に試験器を貼付け、スポンジを介してコンクリートに吸水させるという独自の工法です。施工前と施工後は同一箇所で試験をお願いします。

●塗布前計測:含浸材を塗布する前に、器材に水(水道水500g)を注水しその重量を記録した後、接着します。7日後に器材を水がこぼれないように丁寧に外し重量を計測し、重量の差を算出します。重量の差が**透水量(A)**です。(本体・スポンジ・接着剤・水(水道水500g)の総重量は1kgを少し下回ります)

●塗布後計測:含浸材を塗布し養生を終えた後、塗布前計測と同一場所で計測します。器材に水(水道水500g)を注水し、その重量を記録した後、接着します。7日後に器材を水がこぼれないように丁寧に外し重量を計測し、重量の差を算出します。重量の差が**透水量(B)**です。

●透水比の算出:塗布前・塗布後の透水量を用いて透水比(透水抑制率)を算出することができます。

[透水比率(%): $B \div A \times 100$]

[透水抑制率(%): $100 - B \div A \times 100$]

●冬期間は外気温により接着剤の硬化が遅くなるため、採暖養生が必要です。

●器具の取付後、注水した水が凍ると爆裂する可能性があります。

●繰り返し使用しますと器具の変形により、器具取り付け後の漏水の可能性が高くなり、正確な計測が難しくなります。器具は使い捨てをお願いします。

●コンクリートの透水量は同時打設の場合であっても測定場所によって数値が大きく変動することがあります。また、けい酸塩系表面含浸材を施工した時の透水抑制率は、元のコンクリートの透水量によって変動します。従いまして性能確認の絶対的な数値はございません。

●性能確認試験の報告書例は弊社HPを参照してください。

施工要領

(弊社HPに動画を用意しております)

塗布前計測

工程 1

計測箇所選定・清掃

- 接着面が乾燥していることを確認してください。(雨天の場合は施工をおやめください)
- 試験器を接着する箇所を選定し、周辺の汚れをブラッシングにより清掃、ウエス等で拭き取ります。
※選定する際、欠陥箇所(ひび割れ、あばた、骨材露出)のない表面を選定してください。

工程 2

剥離剤塗布

(試験終了後、器材を剥がしやすくします)

- 型紙(製品に付属しています)を使用し、器材を取り付けるための接着剤が付着する面に下地処理材(剥離剤)を塗布します。
※推奨剥離剤:はくりプライマー(コニシボンド)

工程 3

試験器への注水

- 水道水を準備し、スポンジ(5ヶ)を1度吸水させ、しぼります。
- 試験器にスポンジを入れ、スポンジを押し込みながら注水します。(注水量=500g)
※各スポンジに水を浸み込ませながらゆっくりと注水してください。

工程 4

接着剤塗布

- 試験器のつば部分に接着剤を適量塗布します。
※推奨接着剤:はくりシールONE(コニシボンド)
※接着剤がスポンジ部分に付着しないよう接着剤の量に注意してください。
- 接着剤は2mm弱の厚さで均等に塗ってください。接着する面には段差がついています。接着剤が内側にはみ出さないようにしてください。

工程 5

重量計測、試験器接着

- 台秤で試験開始前の重量を計測(1kg弱程度)
- 剥離剤が乾燥していることを確認してから試験器を接着します。(1~2分程度押さえつける)
※接着剤が試験器の穴から溢れだすことを確認し、均一に接着するようしっかりと押さえつけてください。
※漏水がないか確認してください。漏水している場合は接着不良により試験器落下の可能性があるので、別の試験箇所で再度接着するか、接着剤を除去してから同一箇所に接着してください。

工程 6

試験開始7日後試験終了

- 接着面にスクレーパーを数カ所さし入れ、ゆっくりと剥がしてください。
※水がこぼれないように丁寧にとりはずしてください。
- 台秤で試験終了時の重量を計測します。
- 試験開始前と試験終了時の重量差から吸水量を算出します。**透水量(A)**
- 接着剤をきれいに除去し、ブラシで水洗い洗浄してください。

塗布後計測

塗布前計測と同一箇所で塗布前計測と同様の試験を行い、透水量を算出します。**透水量(B)**

